



四日市橋

## — 人道橋命名の由来 —

平成23年3月11日発生した東日本大震災発生以来、新地駅周辺は新地駅周辺市街地復興整備事業により市街地の整備を行ってまいりました。

事業実施にあたり、三重県四日市市より震災翌年から長年にわたり応援職員を派遣していただき、新地駅周辺市街地復興整備事業に携わって頂きました。

今般、人道橋名を命名するにあたり、これまでの三重県四日市市のご厚意とご支援に感謝し、新地町との友好の架け橋の証として橋梁名を「四日市橋」と命名したものです。

平成28年12月吉日

1. 橋梁名 四日市橋 (よっかいちはし)
2. 橋長及び幅員 橋長L=33.0m 幅員W=4.0m
3. 新地駅周辺市街地復興整備事業
  - 1) 被災市街地復興土地区画整理事業
  - 2) 津波復興拠点整備事業
  - 3) 効果促進事業
4. 応援職員  
三重県四日市市  
山田広幸 杉浦作 木村政晃 岩谷理



大塚橋の由来  
大塚橋は、大塚村の中心地である大塚地区と、大塚地区の南側に位置する大塚地区とを結ぶ重要な交通手段として、昭和30年代に建設された。橋の長さは約100メートル、幅は約10メートルである。橋の両側には、黒色の金属製の手すりがあり、歩行者の安全を確保している。また、橋の両端には、コンクリート製の橋脚があり、橋の安定性を確保している。大塚橋は、大塚地区の発展に大きく貢献している。また、大塚橋は、大塚地区の観光資源としても、重要な役割を果たしている。大塚橋は、大塚地区の歴史と文化を伝える重要なシンボルである。